

第1回香南市学校等の規模適正化等基本計画検討会議 議事録（要旨）

日時：令和3年11月29日（月） 15：30～16：55

場所：香南市役所6階 601、602会議室

出席：防災対策課長、企画財政課長、地域支援課長補佐、農林水産課長、建設課長、野市小学校長、野市中学校長

（事務局）教育次長、学校教育課長、こども課長、生涯学習課長

※教育長は東部教育事務所管内教育長会議出席のため欠席

○検討会議設置要綱について説明

【説明】

所掌事務は基本計画の策定に関する事。委員は、教育長、教育次長、学校教育課長、こども課長、生涯学習課長等の教育委員会事務局。加えて、南海トラフ地震などの防災に関する観点から防災対策課長、企画財政課長には財政的なご意見を、地域支援課長には学校の跡地利用や変更地域の振興とそういった部分での視点でお願いしたい。統合した場合には既存校舎を利用するにしても造成等、宅地開発が関わってくるため農林水産課長と建設課長にはそういった部分でのご意見をいただきたい。教育的な観点で小中学校長会の代表2名に入っている。委員長については、教育長をもって充てる、副委員長は教育次長とさせていただいている。庶務の方が学校教育課において処理をする。

【協議内容】

- ・要綱について、特に意見なし。

○基本計画案について説明

【説明】

まず、規模、配置、通学区域等の基本的な事項に関する事の中で、新設する場合は、津波浸水予測区域外に設置するとしている。これは検討委員会のなかでも津波浸水予測区域にある学校については、できるだけ早く、答申の中でも3年以内に津波浸水予測区域外への配置をすることが望ましいといわれているので、統廃合が必要な場合は上記の原則を重視していくということ。また、再編に当たり、香南市全体の校区等の見直しも含めて検討を行う。通学区域が拡大した校区に対しては、児童生徒の通学における安全確保や負担軽減のためにスクールバスを運行する。次に、規模適正化に関する事として、適正化については小中学校とも1クラス20人以上で1学年、2クラス以上となることを目指すことなどを含めた案となっている。

【協議内容】

- ・答申後に公表された土砂災害警戒区域や河川氾濫による浸水区域なども考慮すべき
- ・最新の情報を反映したものとする
- ・中学校の1クラス人数については、今後変更があるかもしれない
- ・再編案のなかに中学校1校という案があるが、1校700人程度となると部活動で運動場や体育館も必要になるし、学校運営上も厳しいのではないかと
- ・再編案の香我美中学校増築については、圃場整備地や排水のことなども考えなければ

- ・土砂災害のことに関連して、佐古小学校は危険性があるが移転するにしても用地があるかどうか。青少年センターの周りにはそれほどの用地はないと思う
- ・再編については、まずは中学校から始めたらどうか
- ・中学校から始めたいと考えている
- ・野市地区の 3 小学校の境目をどうするか。その見通しが立った中学校がその後出来上がる。中学校をやった後に小学校となると反対に小学校を動かさなくなるのではないか
- ・校区の変更については、合併前の野市町で変更したときも保護者からは様々な意見があったようだ

第2回香南市学校等の規模適正化等基本計画検討会議 議事録（要旨）

日時：令和4年7月28日（木） 10：30～11：40

場所：香南市役所6階 604、605会議室

出席：教育長、教育次長、学校教育課長、生涯学習課長、防災対策課長、企画財政課長、地域支援課長、農林水産課長、建設課長、こども課長補佐2名、赤岡支所長、夜須支所長、吉川支所長、（事務局）学校教育課2名

欠席：野市小学校長、香我美中学校長、香我美支所長

○基本計画案について説明

【説明】

昨年11月に第1回検討会議が開かれた後に、事務局で補完をしながら作成した。前半部分の総論等については、前回と変更はなし。学校の施設等の現状については、前回よりも内容を見直している。再編に伴う課題の対応では、放課後の児童の安全な居場所の確保ということで、前はあまり触れられていなかった放課後児童クラブ等も課題の中に入ることによって記載をしている。資料編ですが再編案ということで幾つかの案を載せている。

また、最近よく言われるのが、学校が移転したあとの活用についてで、これから支所がそれぞれの地域のまちづくりを担っていくことにもなるということで、今回から本検討会議に新たに支所長にも入ってもらうようお願いをした。そういった移転後の公共施設の在り方や、学校を壊すのか、活用するのか、防災上の受入施設としてキャパが足りるのかといった、学校側だけでない視点での議論もいるのではないかと、という意見も事務局では上がっている。

【協議内容】

- ・夜須小中学校の再編案については、香我美小中学校に統合となっているが、平時の通学や津波浸水後の保護者への引き渡しなどを考えると無理があるのではないかと
- ・夜須防災コミュニティセンターの建設を予定しているが、夜須地区全体で考えても避難所は全然足りない状況
- ・夜須に学校を残すなら運動公園も候補地になるのではないかと
- ・現在、教育委員会では夜須の地域へ義務教育学校として残すことを考えていく必要があるのではないかとという意見もある
- ・過疎地域に建設なら過疎債、浸水区域からの移転なら緊防債なども活用できると思う
- ・保幼については、吉川・赤岡地区のことを考えると野市の南あたりに認定こども園がいるのではないかと
- ・スクールバスの在り方についても根本的な見直しが必要と思う
- ・教育委員会で取り仕切るような運営になると考えている
- ・夜須の再編案について今後検討することであれば、赤岡についても、城山高校あたりに保育所や小中学校を移転するというのも検討すべきではないかと
- ・事前復興計画の話があるようなので、それも考慮しなければいけない

第3回香南市学校等の規模適正化等基本計画検討会議 議事録（要旨）

日時：令和5年5月30日（火） 9：30～10：40

場所：香南市役所 601、602 会議室

出席：教育長、教育次長、学校教育課長、こども課長、生涯学習課長、防災対策課長、企画財政課長、地域支援課長、赤岡支所長、香我美支所長、夜須支所長、吉川支所長、農林水産課長、建設課長、契約管財課長、野市小学校長、香我美中学校長、事務局 1名

○今年度の取組み及び基本計画案の説明

【説明】

令和2年3月に検討委員会から出された答申を受けて外部の専門業者などを活用し、基本計画案の作成を進めてきましたが、コロナ等の影響もあり実際には昨年度から本格的にこの会で取組みを進めてきたところ。本年度は、市長から公共施設マネジメント推進を行っていくということが出され、学校のほうもさらにスピード感を持って取り組まなければならないということで考えたところ、地域とか学校から意見を今後聞いていくことも出てくるわけですが、なにか具体的なものが示されなければ、意見も出てこないような可能性も高いと思われるので、適正化の基本計画の方針というようなものを出していく必要があると考えており、9月を目途に公表したいと思っている。続いて、昨年7月の検討会議で示した計画案からの変更点を説明。これまでの人口等の推移の最新値を令和5年数値に改めたこと。今後の推計値について令和6年度から令和23年度の数値に改めたこと。野市地区3小学校の重複校区ごとの推計パターンを示した部分については、重複する部分もあることから、この部分を削除することを提案。また、各学校の基本計画について、今後具体的な配置例を検討会議で検討していくことから、表現の仕方を改めることを提案。それに関連して、「資料編」についても計画案からは削ることを提案した。保育所・幼稚園についても、再編方針の表現を「検討する」に改めること。また、野市幼稚園の再編方針については具体的な方針は決まっていないことから、当該部分を削ることを提案した。

【協議内容】

- ・重複校区の推計パターンの削除について、保幼や中学校と同じように全体の表は残すようにしてはどうか
- ・小学校全体の表を残すようにする
- ・規模の適正化について、案のなかで「児童数推計だけでなく、地域的要因等も考慮する」とあるが、津波浸水エリアであっても、地域的に残すということか
- ・基本的に津波浸水エリアからエリア外へ除くという考え方
- ・基本的に津波浸水エリアからエリア外へということであれば、「地域的」より「地理的」とするほうが良いのではないか
- ・「地理的」に改めるようにする

- 昨年の検討会議では、夜須地区と赤岡地区の再編案について意見があったが、今回の案への反映はどうなっているのか
- 反映はしていない。今後の検討会議で具体的な再編案を協議していくことになる
- 防災対策課の事前復興との連携も大切と考える
- 文部科学省の「災害に強い学校施設の在り方について」という報告書では、津波対策を検討するには正確な実態調査を行うこととなっている。そのような資料の提示も必要ではないか

第4回香南市学校等の規模適正化等基本計画検討会議 議事録（要旨）

日時：令和6年2月16日（金） 14：00～15：55

場所：香南市役所 604、605 会議室

出席：教育長、教育次長、学校教育課長、こども課長、生涯学習課長、防災対策課長、企画財政課長、地域支援課長、赤岡支所長、夜須支所長、吉川支所長、農林水産課長、建設課長、契約管財課長、香我美中学校長、こども課3名、事務局1名

○規模適正化基本方針説明会での意見について

【説明】

令和5年10月から令和6年2月にかけて、各学校・保幼のPTA役員や学校関係者及び各地区の皆様の基本方針の説明を行った。頂いたご意見には「地域に学校がなくなると地域自体が寂れる。学校は残してもらいたい。浸水区域内に建設という考えはないか。」「保育と小学校が近く、送り迎えにも便利。児童クラブなどは少人数のメリットもある。タワーなどの避難施設があるのであれば学校は残してほしい。」など学校存続を望むご意見や、「統合した場合、小規模校から大規模校に行った子どもへの配慮も必要である。」「統合して学校が遠くなるということは少なからず親の仕事にも影響があると思うので、親の意見も聞くべきだと思う。」など、子どもや保護者に配慮するご意見、「この方針はある一定理解している。一番気になるのは地元がどうなるか。地域全体をどうするのかということも含めて考えてほしい。」など、再編後の地域のことを心配するご意見などがあった。

○具体的な再編案たたき台について

【説明】

学校教育課から小中学校の再編案、こども課から保育所・幼稚園の再編案について説明を行った。また、基本方針説明会で頂いた再編についての意見や提案をまとめたものについて説明を行った。

【協議内容】

- ・保幼小中の連携について、中学校は自転車通学も出来るのである程度離れていても大丈夫だとは思いますが、保幼小は一带で整備したほうが良いと思う。位置関係も含めて全体的に考えるべき。
- ・保幼について、民間施設の活用はどのように考えているのか。
- ・現在市内には小規模な民間施設が多いが受入人数なども考慮し、協力しながらやっていきたいと考えている。
- ・保幼の再編案について、小学校再編案との連携はどうなっているのか。保幼の保護者としては、どこの小学校に行くことになるのか気になる場所だと思う。

- ・多様な事情を持つ子どもたちのためにも、小規模校を残すパターンの検討はできないか。
- ・検討しないということはないが、職員の配置など学校運営に支障が出ないように考えていかなければいけない。
- ・赤岡小学校の体育館は避難場所になっている。学校から体育館への通路も確保されているが、それでも浸水区域内にあるということで、再編の中に含まれるということなのか。
- ・教育の早期再開というところが一番の視点。学校施設が浸水してしまうとインフラも被害を受け、学校としての機能が戻るには1ヶ月や2ヶ月では難しいと思う。そのようなことから、浸水区域外にあったほうが良いという考え。
- ・住民に示す再編案は、方針に沿った案だけでなく意見として出てきたものも示す必要がある。担当課はその案についての検討を行い、再度会議を開く。